

市 研 特別活動 速報

【高学年部会】

発行日 平成28年7月15日

横浜市立小学校特別活動研究会

会 長 高橋 宏明

研究テーマ 明るい未来を切り拓く子どもを育てる学級活動の在り方
～集団活動を通して、子どもの自尊感情を高めるには～

活 動 名 『6の1成長ブック』を作ろう

○活動のねらい

『6の1成長ブック』を作ろうの活動を通して、思いを出し合い、みんなで一つのものをつくり上げるよさに気づき、自分たちの頑張りやよさを感じながらよりより学級をつくろうとする態度を育てる。

○テーマにせまるための具体的な手立て

- ・ 共通体験である修学旅行中の自分たちの頑張りや「成長ブック」にすることで、個人の思いを、学級全体への思いへと共有しやすいようにする。
- ・ 自分たちの頑張りや学級全体のよさにつながっていることに子どもたちが気付くように、教師が具体的に価値付けする。
- ・ 学級全体で自分たちのよさを見付け、残す活動であることを意識するように、見出しや表紙作りを全員で進めていくようにする。

○研究討議・講評から

- ・ 6月のこの時に、全員が同じ活動をして、振り返りを行ったという点がよい。共通体験の中から生まれた「いいね」「面白そうだね」と教師が引き出したことで、活動が広がり、年間を通した活動をつくる力へとつなげることができた。
- ・ 高学年になるにつれて、思っていることはあるけれど、なかなか言えないという児童も出てくる。こうした中で、自分たちの頑張りや、全員が表現していくという活動は、とてもよいことだと思う。
- ・ 自分たちがいかに頑張ったかという振り返りを残していくという活動がよい。修学旅行中、全員が一人一役の実行委員として活動したのであれば、自分が頑張った自己評価を残すだけでなく、友達から「〇〇さんが、～をして頑張っていた」という他者からの評価を残し、相互をしていくとよい。
- ・ 本活動は、活動をつくっていく楽しさを味わう6年生らしい活動である。今は、「思い出ブック」でも、今後、活動のめあてを明確にすることにより、その活動に対して、自分がどんな思いで取り組み、どのように変わったのか成長を綴っていくことができると、本当の意味での「成長ブック」になっていくに違いない。
- ・ 今回は、教師がよさを価値付けすることで、自分たちや学級のよさに気付くことができた。今後は、ねらいに対しての価値規準をはっきりさせることにより、どんな姿がよいのか子どもたち自身が価値に気付くことができるようになっていく。